

One Minute Video の授業活用事例-茨城大学編-

人文社会科学部現代社会学科メディア文化メジャー 教授 村上信夫

科目	<ul style="list-style-type: none">専門科目「映像制作Ⅰ」 (2年 20~40人)専門科目「映像制作Ⅱ」 (3年 20人前後) <p>2科目の課題として採用。 (4月~5月の2か月で1作品制作)</p>
授業の目的	<ul style="list-style-type: none">映像制作Ⅰ：映像制作の流れ(企画・撮影・編集・発信)を学ぶ。Ⅰでは、5~6人のグループで1作品を完成させる。 → 自分の企画をプレゼンし、グループで協力する。映像制作Ⅱ：1人1作品を制作。但し、制作自体は3~4人のグループで取り組む
OMVの効果	<ul style="list-style-type: none">「One Minute Video コンテスト」は一つのゴールとして、学生の目安となる。過去にグランプリを輩出、目標になる。
制作期間	<ul style="list-style-type: none">2019年度から、映像制作Ⅰは後期、Ⅱは前期に配置された為、今年はⅡのみの課題となる。過去のⅠ、Ⅱは、4月~6月の5~6週で企画~完成、応募する。スケジュールは下記の通り。 <p>第1週目 企画・発想 企画書を作る。</p> <p>第2週目 企画書プレゼン。台本を書く。</p> <p>第3週目 台本・スケジュールプレゼン。教員の許可が出来たグループから、自由に制作に取り組む。</p> <p>第4週目 自由作業 (ロケハン・許可申請など・撮影) *次回までに編集し、教員試写1回以上。(授業時間外)</p> <p>第5週目 自由作業 (編集・全体試写)</p> <p>第6週目 完成試写 → 授業内で投票 順位を決める。 ○オープンキャンパスで公開。 ○OMVコンテスト応募。</p>
使用機材	デジタルカメラで撮影、骗取ソフトで編集を行う。
特徴・成果	1) 発想から企画の段階を重視し、それを「見える」形にし、周囲を説得するための企画書を徹底的に指導する。完成稿までに2~4回直しを指示する。逆にいえば、企画書の許可が出ない企画は、その後の作業を許可しない。

	<p>(学生の企画力、プレゼン力が成長する。この段階で考え方により作品のクオリティーが上がる)</p> <p>2) 同様に台本で事前のシミュレーションと準備を行う。 (準備の大切さに気付くと同時に、作品の完成まで見通す力を養成する=プロジェクト感覚)</p>
その他	<p>○本学のメディア文化メジャーは、国立大ではほぼ唯一のメディアコースのため、全国から学生が集まっている。(定員 45 人)。</p> <p>○が、実作者養成のコースではないため、映像制作の科目は、「映像制作Ⅰ」「同Ⅱ」しかない。</p> <p>○学生のほぼ全員が映像制作は初めてである。</p> <p>○90 分×15 回で 1 クールの授業。この間に OMV1 作品、短編（時間自由）作品 1 作品の計 2 作品を完成させる。</p> <p>○15 回の授業内では時間が足りないため、撮影、編集は時間外にも自主的にやっている。(シラバスにも「時間内だけでなく、自主的な取り組みを求める」旨、記載している)</p>